

2022年5月8日 説教「再臨に備えて」

マタイの福音書 24章 15~28節

今朝もマタイの福音書 24章から、イエスが教えられた終末の出来事の記事を通してともに考えます。

1. 荒らす憎むべきもの (15~19)

- ①聖なる所に立つのを見たら (15)「それゆえ、預言者ダニエルによって語られたあの『荒らす憎むべきもの』が、聖なる所に立つのを見たら、(読者はよく読み取るように。)」預言書であるダニエル書の9章27節には「荒らす忌むべき者が翼に現れる。」とあります。「荒らす憎むべき者」とは誰なのでしょう。何らかの意味での破壊的な存在でしょう。少なくとも、ダニエルの時代にあっても、キリストに時代にあっても、聖なる神に逆らう存在でしょう。そして、神に従おうとする者たちに攻撃をして来るものでありましょう。「聖なる所」とはエルサレムのことでしょう。
- ②逃げよ (16~18)「そのときは、ユダヤにいる人々は山へ逃げなさい。屋上にいる者は家の中の物を持ち出そうと下に降りてはいけません。畑にいる者は着物を取りに戻ってはいけません。」ユダヤにいる人々は山々に逃げよ、とあるように、具体的な場所や対処が述べられています。そしてさらに個別的なことも伝えられます。屋上にいる者が家の中に物を取りに戻るなどあります。つまり、少しでも避難が遅れれば命が危ういということでしょう。もし畑で働いている人がいるならば、服が汚れていようと、何らかの用事があったとしても、家に戻るようなことをしてはいけないのだ。そんな余裕はないと言われます。「ちこちゃん」の番組で大学教授が、人間が命を守る行動としては、戦うこと、逃げること、隠れることがあると教えてくれました。ここでは、命を守るために「逃げる」ことが促されているのですね。
- ③哀れなのは (19)「だがその日、哀れなのは身重の女と乳飲み子を持つ女です」。その日に、身重になっている女性や乳飲み子を持つ女性については、機敏に逃げるできない状態であるので、逃げるのが困難であり、不幸なことが起こりやすく哀れであると伝えられます。

2. 苦難と避難 (20~22節)

- ①冬や安息日 (20)「ただ、あなたがたの逃げるのが、冬や安息日にならぬよう祈りなさい。」荒らす者たちが行うことは、荒っぽく卑劣極まりないので、逃げるのに容易ではない。季節が冬であれば、寒さと雨の多い時季でもあるので、逃げにくいのです。また、神の前に出ることが優先され、仕事をなすことが禁じられている安息日であれば、逃げるのに支障が生じやすい。だから、その日が逃げにくい、冬や安息日にならないようにと祈りなさいとキリストは細かな部分

への教えを与えてくださっています。

②ひどい苦難 (21)「そのときには、世の初めから、今に至るまで、いまだかつてなかったような、またこれからもないような、ひどい苦難があるからです。」そのときには、苦難があるということです。それはとんでもない事態となり、世がこれまで経験したことなく、これからもないような大変な状況になるということです。前兆として挙げられた、戦争、飢饉、疫病なども、人々には苦しいが、それ以上のこととなると言われます。

③日数が少なく (22)「もし、日数が少なくされなかったら、ひとりとして救われる者はないでしょう。しかし、選ばれた者のために、その日数は少なくされます」その事態が長引けば、救われる者がなくらいだということです。それぐらいに過酷な事が起きるといっていいでしょう。しかし、選ばれた者たちが救われるように、その日数に限りがあるようにされるとあります。選ばれた者というのは、神に従順な者たちの事です。

3. 主の再臨と感わし (23~28 節)

①選民への感わし (23~24)「そのとき、『そら、キリストがここにいる』とか、『ここにいる』とか言う者があっても、信じてはいけません。にせキリスト、にせ預言者たちが現れて、できれば選民を感わそうとして、大きなしるしや不思議なことをして見せます。」そのときとは「荒らす憎むべき者」が聖なる所に立つ時です。そのときには、様々な情報が錯綜するのです。偽キリスト、偽預言者に関する知らせや噂が出回るのです。偽り者たちのなかには、奇跡や不思議な業すら行って感わすのです。私達はそのような情報などにだまされやすいのです。でも、信じてはならないと戒められます。なぜならば、それらは、信じる者たち、選ばれた者たちを、真の神から引き離そうとするからです。

②荒野にいらっしゃる (25~26)「さあ、わたしは、あなたがたに前もって話しました。だから、たとい、『そら、荒野にいらっしゃる。』と聞いても、信じてはいけません。『そら、へやにいらっしゃる』と聞いても、信じてはいけません。』」メシヤ (キリスト) が荒野にいらっしゃる、と言った情報は、もっとものように聞こえるのです。「荒野に呼ばれる者の声がする」(イザヤ 40:3) という御言葉があります。荒野という言葉には独特の響きがあり、惹かれるのです。逆にメシヤ (救い主) が奥の部屋にいらっしゃるという言葉は、身近なことに関係づけられていて、だまされやすいのです。

③いなづまが (27~28)「人の子が来るのは、いなづまが東から出て、西にひらめくように、ちょうどそのように来るのです。死体のある所には、はげたかが集まります。」人の子 (救い主) が再臨は、稲妻が東から出て、西において閃くように、一瞬のうちになされるという

のです。それは人があれこれ言っているようなものではなく、圧倒的な顕現であり、そこには権威があるのです。死体のあるところにハゲタカが集まるように、そのときには滅びる者たちのところに、再臨の主は現れることになるのです。

《結論》 聖書のなかに記されている預言の理解については、次のことを覚えていく必要があります。つまり、記されている預言には、近い将来に起こることと同時に、長期的あるいは時については限定されない将来に、起こることが重ねて述べられていることがあるということです。それを山の景色に例えるならば、近くに見えている山と、そのずっと向こう側にある高い山が見えるとしめます。預言においては、前に見えている山のことで、その奥に見えている山についても同時に語っていることがあります。

今朝の聖書箇所において、「荒らす憎むべきものが聖なる所に立つ」という預言は、キリストが語られた時から、40 年ほど立った紀元 70 年にエルサレム神殿滅亡という形で実現します。その時はローマ軍の攻勢により、エルサレムは包囲され、ついに神殿は破壊されたのです。その時にクリスチャンはキリストの言葉を導かれて、都を後にしてペレヤ地方まで避難したと言われます。逃げたのです。エルサレムの町は苦難に満ちました。赤子を持つ母は苦悩し、飢えのために命を落とした人々も多数ありました。偽キリストや偽預言者も続出したようです。

それでは、今朝の聖書箇所にある預言はそこで成就したので、今日の私達には意味がないのでしょうか。いいえ、そうではありません。成就したのは手前に見える山であって、向こうにそびえる山のことと同時に語られているのです。つまり、この預言は同時に終わりの日のことをも預言しているのです。終わりの日の周辺には「荒らす憎むべき者」の元締めであるサタンが最後のあがきのようにして、人間に苦難をもたらすことがあるということでしょう。創世記のノアの時代、世には悪がはびこり、神はノアに箱舟を造るように命じられました。ノア一家が命を守るために箱舟に逃げだすためでした。終わりの日に神を信じる人間がそのようなサタンの攻撃に、どのように対処すれば良いのかは、20 節にあるように祈るしかありません。

ただ覚えておきたいことは、終わりの日の周辺では、偽キリストや偽預言者がもっともらしいことをいうということです。それら

にだまされてはならないのです。終末に、キリストが再臨することは確かなことですが、それはもう稲妻が東から出て西にひらめくように、権威をもって明確に現れてくださるのです。聖なる主の再臨は、誰かの説明は不要なのです。

それでは、その時に備えるために、キリストを信じる者が心しておかなければ

ならないことは何でしょう。「死体のある所には、はげたかが集まりま

す」とある点に注目しましょう。つまり、その時に聖なる神は、不義、不正、汚

れについてのさばきをなさるといことです。神は憐み深く赦しの主ですが、

罪はどこまでも嫌われる方です。終わりの日があることと、その日に起こる

事を知らされた者たちは、こぞって主の前に悔い改めたいのです。

小原兄が送信してくれた写真に、ある教会に掲げられた標語が写っていました。

「とりあえず、全員悔い改めよ」。これから歌う讚美歌 171 番の 1 節～4 節

の 3, 4 行目は「主よ、けがれし、身をきよめて、御国のそなえを、なさせたまえ」です。再臨される主を待望しつつ、備えてまいりましょう。